平成27年度 第3回総合教育会議 議事録

日時：平成27年11月13日（金）16：15～17：15

場所：佐世保市役所5階 庁議室

出席者：朝長佐世保市長、永元教育長、久田教育長職務代理者、深町教育委員、合田教育委員

【議事録】

【総務課長】

定刻となりましたので、只今から、平成27年度第3回総合教育会議を開催いたします。

それでは、ここで会の主宰者であります、朝長市長よりご挨拶をいただきたいと思っております。

【朝長市長】

皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございますございました。

さて、この総合教育会議も、今回で3回目を迎えることとなりますが、振り返りますと、第1回会議は、5月21日に開催し、委員構成や協議事項の整理のための要綱を策定するなど、事務的な協議をおこないました。

第2回目は、9月2日でしたが、ここでは、総合教育会議を設置する趣旨の一つでもあります「大綱」の策定を始め、県立高校女子生徒逮捕事案を受けての教育委員会としての所見並びに今後の取り組み、あるいは中学校教科用図書の採択についてのご報告といった議題で協議を進めたところでありました。

3回目の本日は、平成28年度以降に向けての教育に係る課題や問題、取り組みというものをお聞かせいただき、対応の方向性というものを共有しながら今後の施策等に反映できればと思っております。

全国的な動向に目を向けますと、財務省から、少子化を理由に9年間で全国の3万7千人の教職員を減員してはどうかというような大胆な意見も出されました。或いは、名古屋市で中学2年生の男子生徒が、いじめを苦に自らの命を断つといった悲しい出来事も発生しております。

このような出来事に触れますと、複雑で多様化した現代社会を生き抜く心身ともに健全な子どもたちの育成はもとより、その育成に大きな役割を果たす教職員をはじめ、教育現場を取り巻く環境も一層厳しさを増すのではないかと感じています。

少子化等厳しい将来予測を乗り越えるためにも、有益な情報や施策を敏感に

感じ、取り入れていく。そういう感覚を常に持ち、緊張感ある行政運営に心掛けていかなければならないと思っております。

本日は、1時間という限られた時間ではございますが、今後の教育行政の推進のため、各委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしく願いいたします。

【総務課長】

それでは、ここから協議に入らせていただきます。

ここからの進行は、市長にお願いします。

【朝長市長】

それでは、協議に入りたいと思います。

協議事項「平成28年度以降の課題や取り組みについて」ということですが、どのような課題を抱え、取り組んでいこうとしているのかということについて、ご意見をお願いします。

【教育長】

それでは、教育委員会の施策全般につきまして、私の方からご説明させていただきたいと思いますが、内海委員におかれましては、本日別途用務がございまして、ご欠席されておりますので、お許しいただきたいと思います。

それから、市長におかれましては、この季節、スポーツ・文化と盛りだくさんでございまして、各地域に足を運んでいただき誠にありがとうございます。

その際には、市政全般の話は然ることながら、特に教育行政については直に市民の方々から色々なお話があつているところもあり、ご対応いただきありがとうございます。

私共も、文化・スポーツをはじめ色々な行事に出席いたしておりますけれども、特に学校訪問や研究発表会等へ教育委員さんと共に出席し、その学校の実態把握をしながら指導を行っているところでございます。

今、市長の挨拶にもありましたように、9年間で3万7千人の教職員定数削減という財務省と文科省の間で熾烈な戦いがあつており、非常に大きな問題が直に及んでくるのではないかと危惧いたしております。九州都市教育長協議会、長崎県などにも文科省の方が来られて、私たちとしては当然『反対だ』という声を上げていくべきだと思つているのですけれど、市長にも全国市長会や九州市長会などの機会あるごとに、その機を捉えて声を上げてほしいというご意見がありましたので、この場をお借りしてお伝えしたいと思つています。

もし、削減ということになった場合に、我々として危惧いたしていることとし

て、少人数指導というのが今県から45名程来ておりますけれども、26年度と27年度を比較しますと、59名から45名へと14名減っております。これは、県が独自で予算化するというよりも国の裏打ちがあつてからのことですので、そういうところにも及んで来るのではないかと感じております。少人数指導と言うより少人数学級については、正規職員ということになりますので、そういうことになると国の施策でということもございますので、そうならないようにと思っています。

あと一つは、特別支援学級です。これは、県費の正規職員ということで、25年度頃から情緒障害等の児童数の増加ということがありまして、一人からでも特別支援学級が開設できる制度になりました。佐世保市はいち早く25年度、26年度に開設してきましたので、県費負担教職員の配置をいただきながら、随分クラス数が増えてきております。このところは、急に削減ということはないかなとは思っておりますが、そういうところも影響を受けるのではないかと心配しているところでございます。

それから、国際理解指導員の加配であるとかも、我々としては望んでいるところでございます。

学校教育に関しましては、第2回の総合教育会議の中でお話ししました「県立高校女子生徒の逮捕事案に係る取り組み」ということで、前回お話ししたとおり8月25日にいじめ対策推進委員会の中でまとめたものをいただきました。9月2日に教育委員会の所見と今後の取り組みということで、市長にもこの会議の場で報告したところでございます。9月17日には、議案外報告ということで、議会にも報告を致しました。「一定難しいところがある」というご意見も出ましたけれど、そういう方向で、できるところからやっっていこうという我々の意向を汲んでいただいたものと思っています。

市民のご意見としましては、市政懇談会の中で山澄地区を始め2地区で、直接的に市長や私たちの耳に入ったところでございますけれども、一定ご説明をして、できるところからやっっていくと。

具体的にいえば、平成27年度の予算で、答申をもらう前でもございましたけど、できることからやっっていくという考え方の下に「こころの状況調査」を実施いたしました。この件につきましては、先程申し上げました学校訪問の中で、一つ一つ学校の状況を見ていきますと、個人の話もありますし、学級単位、学年単位というものが出てきます。やはり、意外であると、そういう子には見えないけれど調査結果を見てみると、ギャップがあると。これにつきましては、初年度でもありますので、来年度以降そういう傾向が続く場合には、対策を要するのではないかなと思います。

それから、今後の話ですが、SSW（スクールソーシャルワーカー）とか、SC（スクールカウンセラー）とかの充実、それと佐世保市教育委員会版CRT（クライシスレスポンスチーム）というものを考えているところですがけれども、これは、危機に対応する組織で、例えば保健福祉部ですとか、教育委員会とかでチームを組んで、概ね3日間ほど派遣をするといった当面の対応をし、その後SSWやSCに対応を繋いでいくというもので、そういった組織を作る方向で検討を進めてまいります。

更に、読書活動の推進ということで、これはすぐに成果が現れるものではないといったことはありますけれども、学校司書の人数の確保もあります、質の向上というものが大事になってくるんじゃないかなと思っております。

次に、学力・学習状況調査ですが、これは我々も反省しなければならないのですが、あと一歩で、全国平均、県平均という所でございますので、そこは越えたいと思っております。関連いたしますけれども、来年度、中核市移行を目指しております。教職員等の研修事業が佐世保市に移ってまいりますので、その充実という意味から行財政改革推進局等へも人員の確保をお願いし、更に学校保健課にも研修権が移ってきますので、栄養士ですが、これの確保ということをお願いしております。

この点につきましては、両方とも重要な案件でございまして、教育センターの充実を図ることで教職員の資質向上を図ることができるし、それに伴い学力の向上にも少しでも繋がればと思っております。

給食アレルギーの問題では、現マニュアルが、少し齟齬があったり、足りない部分がありましたので、今年度、学校保健会、特に医師会の皆様のご協力を得ながら改訂版の作成の最終段階に入っているところでございます。

これは、学校現場にもきちんと下ろして一定の対応をしないと非常にあやふやな要素が多く、学校給食で対応できるのかというものまでありますから、現場がきちんとした対応ができるようなマニュアルができればと思っております。

子どもたちの安全安心ということに関しましては、非構造部材の耐震化対策の充実ということで平成28年度から着手の予定でございます。学校施設の耐震化が今年度で完了しますので、次にどう進めるのかということを考えてまいりたいと思っております。それから、学校施設全般の老朽化は、これまでずっと積み重なったものがございますので、今後も継続的に取り組んで参ります。更に、通学路の安全ということにつきましても、非常に重要なことであると認識しております。地域の皆様の大いなるお力をお借りしているところでございますが、通学路については地域から要望として常に出ますので、土木部とも協力しながら、配慮は必要ではないかと思っております。

生涯学習・スポーツの推進という施策にあつては、まずは、平成24年4月に徳育推進のまちづくり宣言を致しました。一徳運動の推進を教育委員会としても、強力に進めていきたいと思ひます。徳育カレンダーをどこまで配るのかという問題もありますけれども、できれば一世帯に一冊ずつ配ればということで、現在予算の検討をしているところでございます。

生涯学習・スポーツ推進において、公民館、体育施設の老朽化という問題もあります。これにつきましても、当然雨漏りや窓ガラスの割れというものはすぐに対応しなければなりません、長期的な視点で言えば、公共施設の再編、保存計画というものを考えながら、改修の要・不要を判断していかなければならないと思っております。今般教育委員会での条例審判の中で、公民館の受益者負担ということに関して議論を致しました。特に公民館の無料の所をご負担いただくということにつきましては、教育委員会では受益者負担の考え方は妥当ではないかという結論に達したところでございます。

文化財の保護・整備については沢山ありますので、一定の所で止めたいと思ひますが、まずは、福井洞窟展示施設の整備ということで、先日中央公民館でも公演がありました、沢山の貴重なものがあるという再認識に至っておりますので、この整備については、心を遣っていきたくと思っております。それと同時に近代化遺産の分類に入るのかもしれませんが、針尾送信所保存整備、それから新たに去年、親和銀行から寄贈頂きました楠本端山邸の整備等もございまして、そういうものにも意を用いていかなければならないと思っております。

その他、沢山の分野に教育委員会は受け持ちがありますが、私の方からは、以上のような課題等についての説明に止めさせていただきたいと思ひます。

また、この他に、久田教育長職務代理者、深町委員、合田委員と今日はいらっしゃっていますので、各委員から順番に一言ずつご意見をいただければと思っております。そういうことで、市長よろしいでしょうか。

【市長】

はい。ありがとうございました。

今、教育長からありましたが、それぞれの委員さん。久田教育長職務代理者は学校教育関係者ということでありますので、それを中心にご意見を言っただけならばと思ひますし、深町委員は、地域・家庭の代表者ということで、それを中心に、そしてまた、合田委員は保護者としてということもありますので、何かございましたら、それぞれのコメントを頂ければと思ひます。よろしく願ひします。

【久田委員】

本日は、教育委員として市内の小・中学校の学校訪問の概略と学校訪問をしてみてもの私の感想を申し述べたいと思います。

教育委員として事務局と一緒に学校訪問しておりますが、分校を入れずに小中合わせて74校あります。5月から始まり、12月頃には学校訪問は終わりますが、研究指定校も合わせると年間30校程度を訪問しております。

特に重要なのは、次の4点だと私は考えています。

一つ目は、校長先生が、その学校の経営方針等を、具体的な資料やデータを基に説明していただくこと。どんな子どもを育てたいのか、学校を取り巻く環境にどんな課題があるのか、学校に在籍している児童・生徒の個別の課題、様々なことが、具体的な資料、データを基に説明がございませう。それが、約20分弱あります。

その後、私たちが事務局と一緒に、具体的な部分で見えなかつた所や説明を受けた部分の質疑を行います。それが2点目です。

3点目は、学校経営の説明を受けた後、実際に児童・生徒はどんな状態なのかというのを、児童・生徒の授業の様子、全教職員の授業の様子、校内の施設等の状況、或いは環境整備がどのようになっているのかといったところを参観させていただきます。

4点目に、更に、これを受けて「まとめの時間」ということになりますが、校長・教頭に対して、気づき・感想を伝える。

この4点が大きな流れであり、大事な点であると思っております。

私自身は、学校訪問をして主に、次の2点に焦点を絞って質問をするようにしています。

特に、初めて校長先生になられた、或いは他郡市からお見えになった校長先生に対して、この学校の何が課題なのか、校長先生になられて、どこをどう変えられたのか、ついつい校長先生の中には前年度を引き継ぎながら、踏襲しながらと考えている校長先生がいらっしゃいます。

やはり、人事というものが、学校を活性化させるという働きがある以上、これまでの手段は大切にさせていただいていいのですけれども、学校に新風を巻き込んで欲しいという思いがありますので、そこを質問させていただいております。

しどろもどろされる校長先生、4月からすぐにここを変えているという風に自信をもって具体的にお答えされる校長先生、管理職の意識というものが学校を変えるんだなというところが本当によくわかります。

多くの校長先生がそのようなお考えで、取り組んでおられます。

2点目に私が質問するのは、小学校と中学校がどのように連携を取っているかということを知りたいと考えております。

イベントであるとか、クリーン作戦であるとか、イベント的・行事的な連携は意外と多く見られるのですが、やはり大切なのは教育の内容と言いますか、教職員の研修交流、児童・生徒理解のための交流会などがどうしてもこれから不可欠であると思いますし、小学校、中学校は近隣にございますけれども、壁や溝があったものを乗り越えてこられなかったという過去の状況があるように思うのです。

例えば、小学校であれば、授業が丁寧です。丁寧すぎて困るという時さえあります。一方、中学校は、学習内容が多い関係もあり、授業の進度がスピード感を持って進められる。そういうところを、お互いが乗り込み合って、授業を見て、子どもを見て、交流をする。そうすると色々なギャップが埋まっていくのではないかなど。幸いなことに、最近、多くの学校で教職員がお互いの授業を見に行くということが増えてまいりましたので、これは是非佐世保の特徴として、どんどん進めて欲しいなと思っております。

ある小学校を最近学校訪問しましたら、中学校と交流するときに「どの教科の先生が必要ですか」と尋ねました。私は校長をしていた経験もあり、どのように答えるのだろうと関心を寄せていると、その校長は「美術の先生です。」と。「美術の先生に具体的に専門的なことを小学校に来て教えていただくと非常に助かる。」との答えが返ってきました。

一昨日は、祇園中学校に行きましたが、その美術の作品一つ一つがとても素晴らしく、委員さんも皆びっくりするような状態でしたので、「ああそういうことなのか」ということを肌で感じてきましたし、再来週は金比良小学校で英語の乗り入れの授業もあるということで大変楽しみにしておりますので、そういうことが見られるようになってきているという傾向が非常に良いと思っております。

また、学校訪問の最後には、事務局から具体的なことも申されますが、私どもそれぞれの教育委員には得意分野がございまして、地域や女性の立場から、或いは保護者の立場から、はたまた経営者の立場から、視点の違った意見や質疑が行われますので、私自身もその見方がとても勉強になります。

少し蛇足ですが、実は特色のある学校づくり対策事業の予算は、他都市から見えない校長先生からすると、他都市では見られない予算の付け方で、学校裁量で使えるという点では、素晴らしいことです。ただ、それが習慣化しないようにきちんと事務局の方でも見届けて欲しいとも思います。

これと併せて、少人数指導支援事業は市費で賄っていますし、特別支援指導補助員派遣事業もありがたいことかなど。実際に課題を抱えた子どもの傍で補助してくださる方を見ると「あぁいいことだなあ」と思っています。

あと、学校司書も大変いいことだなと思っています。

そういうことで、佐世保市独自の特色ある予算ということについて、今後ともご配慮いただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【朝長市長】

ありがとうございました。引き続き、深町委員さんからご意見をお願いします。

【深町委員】

久田委員さんからも、学校と地域の連携というお話が出ましたけれども、私もその点についてお話しさせていただければと思っています。

今、核家族化などの社会情勢の変化の中で、地域と学校の繋がりというのは本当に重要さを増していると思います。孤立した子育てとか、孤独な子育てを防ぐためにも、地域の眼、見守りや協力は不可欠です。

昔は「とんとんとかからの隣組」という唄があったようで、私も歌っておりましたけれども、やはり地域の繋がりが強くて、地域ぐるみで子どもたちを育てていたと思います。

先日訪問した小学校の校長先生が、「地区の育成会議に地域の公民館長さんが一人も来ていらっしやらなかった。地域との繋がりをどう図ったら良いのだろうか。」と悩んでいらっしやいました。

学校支援会議も含めてですけれども、地域との関わりが上手くできている所とそうでない所があるということを、学校訪問を通して見えてきます。

これは、学校だけの問題ではなくて、地域とPTA、また保護者との関わりが大きく影響しているように思えます。

社会教育にも関連することではありますが、町内会への未加入や子ども会への未加入など、地域と保護者との接点が無くなってしまっているという状況も見られます。

まずは、保護者である大人に地域との関わりや繋がりを持ってほしいなと感じています。

先日開催された徳育推進フォーラムのテーマでもありましたけれども、「大人の徳育」がまだまだなのかなあと感じています。徳育は本当に大切なことですし、佐世保市が取り組んだ一徳運動は、全国に先駆けた誇れる運動だと思っています。

私は、「徳育」という言葉が、「食育」と同じくらいメジャーな言葉になって欲しいと思っています。「徳育に取り組んでいます」といっても、「それ何？」って言われるんですよね。そうではなくて、徳育と言えば、「あぁ徳育ね！」と言われるくらいメジャーな言葉になってくれたらなと思っています。

市内小・中学校における一徳運動の目標設定は、100%なんですけれども、町内会などでは、まだ20%くらいなんですよね。徳育推進会議が連合町内会への説明会を開いたり、先程教育長さんからもご説明があっていた徳育カレンダーを作成して、配布するなど、努力はされていますけれども、徳育においても地域の協力は欠かせないと思っております。

今月の24日に社会教育委員さんと意見交換を予定されておりますので、社会教育委員の皆様とも力を合わせて、学校と地域が連携できるよう、そして一徳運動の推進にも努めていきたいと考えております。

【朝長市長】

はい。ありがとうございます。では、合田委員。

【合田委員】

はい。私は、保護者という立場、それから看護師をしておりますのでそういった分野からのお話をさせていただきたいと思います。

教育長さんもおっしゃいましたけれども、2012年12月に調布市の小学校5年生の女の子が、給食の誤食で亡くなったという事件を受けまして、文科省から学校給食における食物アレルギーの対応について、各市町へ対策を取るように通達がありました。

佐世保市にも元々対策のマニュアルがございましたが、なかなかそれだけでは不十分な部分がありまして、現在医師会を中心としてアレルギー研究部会という組織を立ち上げていただき、新マニュアルの作成に向けて何度も検討を重ねていただいております。

エピペンという特別な薬をお持ちの児童・生徒に対しましては、各学校がそれぞれの主治医や医療機関と連携を図って、エピペンの使用に関する講習なども行っていただいております。

私自身も、何度か主人に付き添って、エピペンの実技指導に関わったことがあるのですが、エピペンの針はとても長いんですよ、それを、全く針を刺したことが無い先生方が一気に刺すということは、なかなか難しいことです。

この刺し方によっては、筋肉が断裂したり、神経に刺さってしまって後遺症が残るなど色々なリスクがございます。でも、命が大切です。

そこで、先生方が戸惑うことなくエピペンを打てるように、また、エピペンを打たなくても良い安全な状況が保てるように、今マニュアルを作成しておりますので、マニュアルが完成されたならば、佐世保市内の全教職員の教育・理解を図り、更に児童・生徒がそれぞれにリスクのある自分のエビデンスをしっかり把握していただいて、エビデンスに基づいた各学校、各治療のマニュアルを作成し

ていただくよう、教育委員会からもしっかりと通達をしていきたいと思っております。

また、私は、保護者として、永く図書ボランティアに関わっております。久田委員さんから学校司書事業は、佐世保市の誇れる所だと折角お言葉をいただきましたが、残念ながらここ2年間佐世保市の学校司書の配置人数は減っております。

調べましたところ、県内でこの2年間、学校司書の配置が増えた都市が3市もございます。そんな中で、佐世保市は、国と県の法律で計画作成を受けまして、「第2次読書大好き佐世保っ子プラン」を今年3月に策定いたしました。

これは、内容を読んでいただいたらわかりますが、佐世保市が取り組んでおります徳育推進や佐世保市の大きな課題である学力向上にも繋がるいい計画ができたと思います。

昨年7月の県立高校女子生徒の逮捕事案を受けまして、佐世保市教育委員会でも何度も話し合いましたが、やはり読書活動推進というのは、心の感性を磨いたり、他者を思いやる気持ちを育てるという意味合いからも、この活動は欠かせないものではないかという結論に至りました。

本年4月より佐世保市は学校司書の全校配置という形をとっております。しかしながら、月に1回の広く浅い訪問では、なかなか児童・生徒の実態を知り、適切な資料を提供したりとか、教職員と図書ボランティアの連携を図るといった点で、実情はかなり難しいのかなと思っております。

個人的には、半年経ちましたので、このシステムの有効性をしっかり振り返るときに来ているのではないかと感じているところでございます。

「3歳、7歳、9歳、11歳で心の大きな節目がある」と児童心理学の中ではよく言われます。奇しくも、大久保小の事件、県立高校女子生徒の逮捕事案における女子生徒は、どちらも11歳の時に大きな心の衝動があったと報道でもあっておりました。そう考えますと、小学生の時に読書活動をしつかりと身に着けさせることが重要であるのかなと思っております。

先日、祇園中学校の方に学校訪問させていただきました。そこに学習案内というものが学年毎にありました。久田委員さんがおっしゃった特色ある学校づくりの予算で作っているそうです。中学1年で読んで欲しい本、2年生で読んで欲しい本というものがありませんでした。あれを小学校のうちに読書活動が身につけば、あの量であれば中学生で読めると思うのです。

ですから、小学校への学校司書の配置、広く浅くではなく深い配置というものが必要かなと思う所でございます。

学力調査の結果からも、小学校、中学校共に読解力というものが大きな課題となっております。このことから、策定された「第2次読書大好き佐世保っ子プ

ラン」をしっかりと私たち教育委員も中心となって推進していくように働きかけていきたいと思っております。

【朝長市長】

はい、ありがとうございます。各委員の皆様にお話をいただきましてありがとうございます。それぞれまだ話し足りないということもあられるかと思いますが、私が少し感じたことをお話しして、それに対してディスカッションしてみるということにしたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

【全委員】

はい。

【朝長市長】

それでは、まず教育長が言われたことの中で、財務省が教職員の削減ということをお話しされておりましたけれども、全国市長会の中でも先日話題になりまして、これは何としても食い止めないといけないということで、全国市長会の会長が財務省としっかり向き合って、話をしていこうということになりましたし、各都道府県選出の国会議員さんにも働きかけをしながらやっていこうという話もありました。

財務省は財務省の考え方で進んでいることですので、どこで妥協できるのかという点が課題となろうかと思えます。

それから、少人数指導ということについては、特に大事なことだと思います。問題を抱えた子供さんたちがいらっしゃると学級運営にも支障を来すことがあるというご意見を受けたこともありますので、そういったことをサポートできるような形を作っていかなければならないだろうと感じております。そのためには、機動力のある先生というか、OBの先生などをお願いするなどの手段もあるかと思えますので、全校に配置ということは難しいと思えますが、問題のある学校には配置して、対応をしていくということも一つの方法かなと思えます。

心の教育については、ずっと続けていかなければならないことだと思っておりますので、過去の問題も反省しながら、これからこういうことが起こらないようにということで対策を作り上げておりますので、それを皆でしっかりと把握しながら、連携しながら取り組んでいくということが大事ではないかと思っております。

教職員の資質の向上については、中核市に移行することで研修事業が移ってまいりますので、今までは全県下ということで研修が実施されてきておりますが、佐世保ならではの先生の育成ということも大事なことじゃないかと思いま

す。

また、学力調査に関しましては、学力を上げていくということも大事なことでありますので、小学校、中学校での基礎学力をしっかりと身につけていくことが大事なことなので、繰り返しの読み書き、そして計算ということを中心としながら次のステップに繋げるということが必要なのではないかと思います。

先の総合教育会議でも、しっかり（先進事例の取り組みを）勉強しなさいと書いておりますので、是非事例を研究しながら取り組んでもらいたいと思います。

給食アレルギーについては、合田委員もおっしゃいましたが、医師会等のご協力をいただきながら新しいマニュアルを作っていこうということですので、これも是非やっていかなければならないだろうと思いますし、また、先程のエピペンの話ですけれども、どこの学校にもいらっしゃるということではないと思うのですが、いらっしゃるような学校の先生方がエピペンを打てるようにしておかなければいけないということで、なかなか難しいと思います。戸惑いも出てくるとは思いますが、これも対応していかなければならないと思います。

徳育につきましては、教育長からも、深町委員からもお話がありましたが、私も徳育は絶対やらなければいけない、やり続けなければいけないと思っています。大人の徳育ということは、今しておかなければ、今の大人ができないことを、子どもたちは絶対にできないと思いますし、戦前の人たちからの徳のあり方というものが、戦後どこかで薄れてしまっているということがありますので、今の大人がそれを受け継いでいるかどうかというのが問題だと思います。徳を受け継いでいる人もいれば、受け継いでいない人もいる、そして受け継いでいないという人が多いということになれば、流れとして徳を忘れてしまうということになり兼ねませんので、今のうちに手を入れていかなければいけないし、それは全市的に推進していかなければならないと思っています。学校は学校で組織的に取り組むことができると思いますが、大人の徳育ということは、しっかり取り組んでいかなければならないと思いますので、「じゃあ何なの？」と言われたときに、その手法の一つとして、徳育カレンダーを少なくとも1か月に一つこれだけはやっていこうよという目標を示すということも必要なのではないかと思いますので、全戸にカレンダーを配布していくということも必要なんじゃないかと思っています。今「徳育通信」というものを、広報させばにも執筆していただいておりますけれども、広報誌を見る人見ない人がいるとうことで、「無駄じゃないか」ということを言う人もいます。しかし、こういうことをやらないとゼロになってしまいますから、見ていただく人を増やしていくということも必要だし、カレンダーに関しても、どれだけの人が見るのかという話にもなりますが、見ない人たちのために置いておく、「こういう材料がありますよ」ということをやれば、見るかもしれないという思いで、推進をしていきたいと思っています。

教育長からありました文化財につきましては、考え方として、福井洞窟や針尾送信所の課題は既に地域等から出てきておりますので、推進をしていこうと思っています。

久田委員からの学校教育の分野につきましては、私も現場をよく知りませんが、委員がおっしゃることも当然だろうなと思います。特に校長先生のリーダーシップによって学校の運営は変わってくるのではないかと思いますので、校長先生になられたとき、或いは教頭先生という準備段階から、そういう教育をしていくことが必要なのではないかなと思います。

特色ある学校づくりの予算を付けてきておりますけれども、これについては他の地域では見られないことだということで、注目をされておりますので、委員がおっしゃるように慣例化しないように、去年やってたからまたやるということにならないように、良いものは続けなくてはならないですが、何年かやって更にまた新しいことをやるときには、一定の成果が出たら次のことをやろうといったことも必要かもしれないと思います。

久田委員が学校訪問を通して、しっかりと（学校経営を）見ていただいている事については、大変ありがたいことですし、また、個別に感じられたことについては、しっかり注意をしていただく、校長先生の先輩ですし、現場を経験しておられたということもありますから、十分聞いていただけるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

図書司書の件については、非常に私も頭が痛いところで、もう少しうまく機能するのかなと思ったんですけれども、なかなか機能しにくいところがあるので、もう少し手を入れないと機能しないのかなと思っています。

ただ、1年は集中的にやったけれども、あとの2年間、3年間はほったらかしになるというのも困ったものだなと思いますので、その辺のバランスの取り方だと思いますので、もう少し頻繁に行ってバランスを取るのか、集中的にするのか、そして図書ボランティアの方たちを上手く育てていくということ、一定の枠組みを作った後は図書ボランティアの方の協力をお願いしてということも私も狙っていたんですけれども、ボランティアの方も途中で辞められる方もいますし、新しく入られる方もいるといううちに、何となく滞ってしまうという雰囲気があって、折角作り上げたものを失うという感じもしますので、まだ今のうちであれば手を入れられるのではないかと思いますので、それも考えなければいけないと思っています。

あと、まだそれぞれご意見を頂いたところなんですけれども、時間もあまりありませんので、私の方から今後の課題として受け止めてもらいたい、教育委員会として、こういうことも捉えてもらいたいなと思うことを一つ、二つ話してみたいと思います。

一つは、小学校・中学校の一貫教育ということで動きが始まっております。特にこの動きの中で、佐世保の特色を出すという意味から、英語教育をうまくやっていくということはどうですかということ、教育長にも言っているのですが、そうするとどうしても人材の問題、ALTの問題などが出てまいりますので、そこを集中的に、モデル的にやってみて、それを他校に広げていくということをやっていかなければならないのかなと思っておりますので、よくこのことを研究していただければと思っています。

特に、光海中学校と金比良小学校は絶好のモデルになるのではないかと思います。英語教育というのは話すことからではなく、聞くことからでなければならぬと言います。私もそれができなかつたから何十時間と勉強してもしゃべることができなかつたので、やはりそこをクリアしていかないと、今のままの英語ではあまりうまくいかないのではないかと思います。概ね2千時間と言われますが、英語のシャワーを浴びせるということが一番大事だということで、2千時間を週1回でやっても何十年とかかりますから、集中的にやる方法を考えていかないといけないのではないかなと思います。そういったことが、授業だけでできるのかという問題も改善の中では出てくると思いますので、それを補完する方法にどのようなものがあるのかなども含めて、検討する必要があるのではないかと思います。

それから、もう1点ですが、今、地区の自治協議会を作ろうとしているのですが、そうした時に、それが学校の校区と整合性が取れていないという課題が出てきています。

久田委員の地元などは特にそうなのではないかと思えますけれども。

通学区の問題をもう一度見直さなくてはいけないのではないかと思っています。二十年、三十年前の事情でそうなったけど、それがいま果たしてそれでいいのかと。その頃は、人口が多くて、子どもさんも多くて、そうなったけれども、今は人口が少なくなった。そして、地区公民館が中学校単位になったというときに、校区が股裂き状態になったり、整合が取れていないという問題が出てきて非常に活動しづらいということと言われる訳です。

教育委員会としては、それでよいと言われるかもしれないけれども、先程地域の方がなかなか学校教育の中に入ってこないとか、そういったことも課題としてございましたので、そういったことを考えたときに、できるだけ整合性を取った形を、今の地区の役員さんの合意を取りながらやらなければいけないと。

最終的に今のままでいいということになるかもしれないですが、いったん見直しをして、それぞれの地域の合意形成をして、取り組んでいかないと、もうその頃の校区に関与した人がいないんですよ。「なんでこんなになってるの」とい

う感じになってきているので、教育委員会としては、一回見直しをして、通学区
域審議会にかけるか、かけないかは、地域の合意形成ができるかということを見
ながら、取り組んでいくことが必要じゃないかと思うので、教育委員会の検討課
題として捉えていただきたいと思います。

以上が、私から検討課題ということになりますが、他にご意見はございません
でしょうか。

【教育長】

市長自らたいへん力強いお言葉をいただきまして、ありがとうございます。

人員削減の問題も全国市長会等でも提案してということでございますので、
文科省は当然ですが、我々もそういう願いでいっぱいですので、あらゆる所に影
響してまいりますので、教育分野における日本の国の在り方ということになり
ますので、是非ともお力添えをお願いいたしたいと思います。

【久田委員】

私も、大学まで英語を勉強したんですが、全くしゃべれないんですよ。佐世
保に住んでいながらこれですから。

ところが、学校訪問しますと、英語活動の時間というのがありまして、今の子
どもたちは全く楽しみながらやっている部分があり、今私が子どもで教育を受
けていれば、また違った自分になっていたのかなと思います。

そういう意味で、今度金比良小学校でも研究発表会がありますし、参観してど
んな様子なのか楽しみにしていきたいと思っております。

【合田委員】

貴重なお時間をありがとうございました。市長さんが、徳育というものを前面
に出されて、素直に社会全体、佐世保市全体を良くしようという意気込みという
ものが、私たちは当然ですが、市民にも伝わっているということをすごく感じて
います。

それは、市長さんの情報発信力ですよ。先程広報させばの話もありましたが、
広報させばだけではなく、フェースブックであったり、ブログなどでも活躍され
ています。若者たちは、それをしっかりと受け止めていると思います。

ですから、こうした若者やその下の子ども達を、私たちは市長さんのようにし
っかりと受け止めていかなければならないと、この会議を通して強く思いまし
た。ありがとうございました。

【深町委員】

私は、先程市長さんがおっしゃった地区自治協議会と中学校区の整合性ということについて、まさに私は山澄地区に属しておりますので、南地区公民館なのか、山澄地区公民館なのかというところで、真っ只中におりますので、そのことについては真剣に考えて、何かしら対策を取っていかねばならないのかなと感じております。肌で、難しさや不便さということは感じておりますので、是非取り組んでいきたいと思っております。

【朝長市長】

(校区との整合について) 今はまだ触りたくないというような感じがあるので、一回触ってみて、そしてその結果としてどうなるのかということをやらないと、皆さん活動しにくいんじゃないかと思っています。是非、一度取り組んでいただければと思います。

それでは、これをもちまして第3回総合教育会議を終了したいと思います。

この会議は、結論を出すということではなくて、幅広く意見交換を行うというのが趣旨でございますので、事務局におかれても本日の意見を十分に参考としながら、課題の検討や来年度予算への反映に取り組んでいただきたいと思います。

どうも、ありがとうございました。

----- 了 -----